

**知識を相互に関連付けて思いや考えを基に創造する姿を目指すために、  
資質・能力が活用・発揮される場面の設定を図る学習**

日 時 令和2年10月30日(金) 5校時 実施  
生 徒 上川町立上川中学校1年A組 15名  
指導者 鏡 匡 助

1 単元名 Unit 6 「オーストラリアの兄」 (東京書籍 1年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋)は、次のとおりである。

**【学習指導要領】～外国語科の目標と内容～**

1 目 標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(3) 話すこと [やりとり]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

2 内 容

エ 話すこと [やり取り]

- (ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。
- (イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。
- (ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり、自ら質問し返したりする活動。

本単元では、新しいALTの情報を得るために、三人称単数の主語を用いたやり取りをさせる。そのために第1学年では、三人称単数の主語で現在形(以降、三単現と表す)の場合、一般動詞に“s”を付けること、その“s”の正体が“does”であるという知識を身に付け、自分や相手以外の人について話したり、たずねたり、また答えたりすることができるようになっていく。第2, 3学年においても、“looks~”や“has to”, “has 過去分詞”など、三単現を扱う時には、常に“s”をつけるよう指導し、意識的に“s”を付けられるようになっていく。

(2) 生徒観

生徒は既習の学習内容が少しずつ知識として定着されつつあり学習意欲も高い。またコミュニケーション活動において、知識を関連付けて自己表現しようとする積極的な姿勢も多く見られる。反面、テストやレポート課題など書くことについては、語彙が少ないこと

## 第IV章

や be 動詞と一般動詞の使い分けがまだ身に付いていないことが原因でのミスが多く見られる。

### (3) 指導観

本単元では、目的意識をもってやり取りをさせるために、新 ALT のウェルカムパーティーを企画し、単元最後の時間に新 ALT の情報を現 ALT から即興でやり取りさせ、聞き出すという場面を設定した。そこで、情報を聞き出すために必要となる三人称という概念を身に付けさせる。手振りを使って理解させ、帯活動であるラインゲームやペアワークの中で繰り返しやり取りや英作文させることで、習得を目指していく。また、最初に単元の最終ゴールである現 ALT とのやり取りをパフォーマンステストとすることを示し、そこに向かうまでの道筋も示しながら、生徒が学習を振り返ることができるように指導していく。

毎時間の授業を進めるにあたっては、思考が止まらないように授業を展開し、お互いの間違いを認め合い、教え合いながら、授業を展開することで、自信をもって活動できるように支援していきたい。

### (4) 学びの基盤

学びの基盤に関わり、本学級では以下の点を大切にしてきた。

- ① 「教室環境の整備」について
  - ・全学級の黒板の上に話し合い活動の手順を掲示し、生徒の思考の流れが見やすくなるようにした。
- ② 「学習規律の確立」について
  - ・チャイム前に席に着くように指導してきた。また、教師側もチャイムが鳴る前に教室に入り、チャイムと同時に授業を開始するよう心掛けてきた。
  - ・正しい姿勢で学習に臨むよう指導してきた。
- ③ 「支持的風土の醸成」について
  - ・自分の考えをもつことや自分なりに表現することの大切さを指導してきた。
  - ・他者の話を理解し、質問をしたり、応えたりする中で、コミュニケーション能力を育み、共感的理解の大切さを指導してきた。

## 3 単元の目標

- (1) 三人称単数現在の肯定文の形、疑問文とその答え方、否定文の形・意味・用法に関する知識を身に付ける。また実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付ける。  
(知識及び技能)
- (2) 自分と相手以外の人について話したり、たずねたり、答えたりすることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 英語を用いたコミュニケーションの楽しさを実感して英語で話したいという意欲を育て、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。  
(学びに向かう力、人間性等)

## 4 評価規準

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 ・学習した言語教材の特徴やまじりを理解している。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、事実や自分の考え、気持ちな	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしようとしている。
〈技能〉 ・実際のコミュニケーションにおい		

<p>・実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>て、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えあっている。</p>	
<p>学習活動における具体の評価規準</p>		
<p>①家族を紹介する発表を聞いて、その人物について、質問したり、答えたりすることができる。</p> <p>②単元テスト</p>	<p>①ウェルカムパーティーに必要なものとそうではないものを伝え合う中で、自分で判断し、意見を伝えることができる。</p> <p>A good party has ○○. A good party doesn't have ○○.</p> <p>②新しいALTのウェルカムパーティーを計画するために、電話を使用し、マーク先生(現ALT)から必要な情報を聞き出すことができる。</p> <p>Does he like ○○ ? What ○○ does he like</p> <p>③単元テスト</p>	<p>①単元の課題に対して、自己目標を設定する。毎時間の学習の振り返りを行い、学習の達成状況を確認している。</p> <p>②新しいALTのウェルカムパーティーを計画するために、電話を使用し、マーク先生(現ALT)から必要な情報を聞き出すとしている。</p> <p>③単元・自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>

5 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の指導計画と評価計画における18次研究との関わり

研究内容(3) 指導計画・評価計画

指導に生かす評価、記録に残す評価の位置付け

本単元は、Part 1で三人称の主語の場合、一般動詞に“s”をつけることを学ぶ。Part 2ではdoesを用いた疑問文とその応答を学び、Part 3ではdoes notを使う否定文を学ぶ。Daily Scene 2では、電話の表現を学ぶ。

記録に残す評価については、単元の最後の時間に単元テストを実施し、「知識・技能」の観点を中心に評価する。主語が三人称の場合に動詞に“s”を付けられるか、またdoesを使って疑問文を作ったり、答えたりすることができるかを見取っていく。またDaily Scene 2の電話の場面を利用し、第三者の情報を聞き出すためのパフォーマンステストを実施し、「思考・判断・表現」の評価を中心に行う。目的のために何の情報が必要か判断し、そのための質問を既習事項を活用して作ることができたかを見取っていく。

それ以外の時間については、指導に生かす評価を行い、個に応じた指導や授業改善に生かしていく。

主体的に学習に取り組む態度については、毎時間振り返りシートを使って、何がわかって、何が疑問なのか等を記入させる。この際、理解度だけでなく、興味をもったことや疑問等を記述するように指導し、授業改善に生かすなど、指導に生かす評価の材料とする。また、小單元ごとにそれまでの学習を振り返り、分かったことや疑問を確認させることで、その後の学習を見通すことができるようにするとともに、単元最後に回収し記録に残す評価の材料とする。単元の最後に行うパフォーマンステストでは、必要な情報をたくさん聞きだすためにコミュニケーションを図ろうとしている姿を見取り、記録に残す評価の材料

第IV章

とする。

(2) 単元の指導計画と評価計画

問題文  学習課題  まとめ  目標  指導 指導に生かす評価  記録 記録に生かす評価

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1	<p>Unit 6-1</p> <p>◎三人称という概念を理解し、主語が三人称の際に、一般動詞に“s”を付けることができる。</p> <p><b>主体的な学び</b></p> <p>○課題を把握する。(単元の最終ゴール)</p> <p>マーク先生に電話をして、新ALTがどんな人か知り、全員が楽しめるウェルカムパーティーを計画しよう！</p> <p>○身振り手振りをを用いて、三人称単数の概念を理解する。</p> <p>○一般動詞に“s”を付ける練習をする。</p> <p>○まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>のとき、do 動詞に“s”を付ける！！</p> </div> <p>●本時の学習を振り返る。(自己目標の設定)</p>	<p><b>指導</b>&lt;①&gt;</p> <p>・観察</p> <p>三人称単数の概念を理解させるために、身振り手振りをを用いたり、三人称単数の手の位置を覚えさせたりして、主語が三人称単数のときには一般動詞に”s”が付くことを理解させる。</p>		<p><b>記録</b>&lt;①&gt;</p> <p>・振り返りシート</p> <p>単元の課題に対して、自己目標を設定する。毎時間の学習の振り返りを行い、学習の達成状況を確認している。</p>
2 3 4	<p>Unit 6-1 復習・Unit 6-2</p> <p>◎第三者の自己紹介を聞いて、その人物について、質問をしたり、答えたりすることができる。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>友達と自分の家族を紹介し合い、内容について互いに質問し合おう！</p> <p>○教科書の本文(unit 6-1)を読み聞きして、第三者についての情報を理解する。</p> <p>○自分の家族を紹介する英文を書く。</p> <p>●ペアやグループで、自分の家族を紹介し、発表を聞いた生徒はその人物について質問をし、発表者はその質問に答える。</p> <p>○教科書の本文(Unit 6-2)を読み聞きして、第三者に関わっての問答を理解する。</p> <p>○まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>のとき、do 動詞に付けていた“s”の正体は・・・“does”！！</p> <p>質問するとき、答えるときは“does”を使う。</p> </div> <p>○第2・3・4時の学習を振り返る。</p>	<p><b>指導</b>&lt;①&gt;</p> <p>・観察</p> <p>最初はペアで問答させ、表現に十分慣れさせてからグループにして問答させる。</p> <p><b>記録</b>&lt;①&gt;</p> <p>・観察</p> <p>家族を紹介する発表を聞いて、その人物について、質問したり、答えたりすることができる。(第4時)</p>		<p><b>指導</b></p> <p>・振り返りシート</p> <p>毎時間の学習の振り返りを行い、学習の達成状況を確認している。</p>

<p>5 6</p>	<p>Unit 6-2 復習・Unit 6-3</p> <p>◎ウェルカムパーティーに必要なものとそうでないものを伝え合う中で、自分で判断し、意見を伝えることができる。</p> <p>○課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>楽しいパーティーには何が必要か考えよう！</p> </div> <p>○三単現の否定文を導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の好きなもの・嫌いなものを用いて、インフォメーションギャップの活動を行う。</li> </ul> <p>○個人で、楽しいパーティーには、何が必要か、必要ではないかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・What does ～ とパフォーマンステストの導入</li> </ul> <p>○教科書 P71 の基本練習などを用いて「しないこと / 好きではないこと」を伝える表現を復習する。</p> <p>○教科書の本文 (Unit 6-3) を読み聞きして、第三者に関わっての否定文を理解する。</p> <p>●ペアやグループで、楽しいパーティーには何が必要か、必要ではないかを伝え合う。その後、全体で共有する。</p> <p>○第5・6時の学習を振り返る。</p>		<p><b>指導</b>&lt;①&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・観察</li> </ul> <p>What does a good party have? の質問の答えを考えさせるために、新ALT の情報を伝える。また、ペアやグループで共有させる。</p> <p><b>記録</b>&lt;①&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・ワークシート</li> </ul> <p>ウェルカムパーティーに必要なものとそうでないものを伝え合う中で、自分で判断し、意見を伝えることができる。</p> <p>What does a good party have? A good party has ○○. A good party doesn't need ○○. (第6時)</p>	<p><b>指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート</li> </ul> <p>毎時間の学習の振り返りを行い、学習の達成状況を確認している。</p>
----------------	---	--	---	---

第IV章

7 8 9	<p>Unit 6 復習・Daily Scene 2 「電話の会話」</p> <p>○教科書 P72～73 の STEP 1～3 を用いて、電話の基本表現を練習する。</p> <p>◎マーク先生(現 ALT)にたくさん質問するために、長谷川先生(T 2)にたくさん質問して、校長先生の情報をお聞き出すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で1～3つの質問を考える。</li> <li>・集団で情報を共有する。3人グループで、それぞれ考えた質問をグループ内で発表し、表現や内容を精査する。</li> <li>・T 2 とのやりとりの中で、校長先生のお聞き出す。</li> <li>・聞いた情報を紙に書いて黒板に貼る。</li> </ul> <p>◎新しいALTのウェルカムパーティーを計画するために、電話を使用してマーク先生(現 ALT)から新ALTについての情報を聞き出すことができる。</p> <p>○課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新 ALT のウェルカムパーティーを計画するために、電話を使用してマーク先生(現 ALT)から新ALTのことを聞き出そう。</p> </div> <p>○ウェルカムパーティーに必要なものをお考え、ALTへの質問をお考える。</p> <p>●パフォーマンステスト(第9時)</p> <p>○聞いた情報をもとに、ウェルカムパーティーの最終計画を組み立てる。</p>		<p>指導&lt;②&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> </ul> <p>校長先生のお聞き出すために、既習の様々な表現を駆使し、個人やグループで質問の表現をお考えさせる。</p> <p>記録&lt;②&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> </ul> <p>&lt; response &gt;</p> <p>新しいALTのウェルカムパーティーを計画するために、電話を使用し、マーク先生から必要な情報を聞き出し、たりすることができ。(第9時)</p>	<p>記録&lt;②&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> </ul> <p>&lt; attitude &gt;</p> <p>新しいALTのウェルカムパーティーを計画するために、電話を使用し、マーク先生から必要な情報を聞き出し、たりしている。(第9時)</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単元テスト</li> <li>●単元の学習・自己目標の達成状況を振り返る。</li> </ul>	<p>記録&lt;②&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> </ul>	<p>記録&lt;③&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> </ul>	<p>記録&lt;③&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート</li> </ul> <p>単元・自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>

6 本時の学習(10時間扱い 8/10)

(1) 目標

校長先生のお聞き出す質問をお考え、マーク先生に必要な質問をするための準備をおすることができる。

(2) 本時における18次研究との関わり

研究内容(4) 観点ごとの総括

必要な情報を聞き出すための質問ができるようにするための見取り方とその判断

次時のパフォーマンステストでは新ALTのウェルカムパーティーを計画するという具体的な場面を想定し、現ALTに電話で実際に質問させる。そこで本時では、必要な情報を聞き出すための質問ができるように、帯活動であるLine gameやPair workの中で、繰り返し質疑応答することで表現に慣れさせる。その後、校長先生のお聞き出す質問をお考え

て、T2に質問をする練習を繰り返すことで知識を深めさせる。T2との練習場面で、表現が適切であるかやり取りができているかについて指導に生かす評価を行い、次時に繋げる。

次時のパフォーマンステストにおいては、記録に残す評価とする。

《努力を要する状況になりそうな生徒への支援》

〈個人思考〉 校長先生について知りたいことを聞くための質問を考える場面

【支援1】 質問の内容で困り感のある生徒については、机間指導の中で、思考を広げられるような校長先生の情報を伝える。

【支援2】 質問の方法(英語の表現)で困り感のある生徒については、前時までのワークシートなどを参考にして、考えさせる。

(3) 展開

1 単位時間の問題文  1 単位時間の学習課題  まとめ **白抜き** 研究との関わり

教師の活動	生徒の思考と手立て
1 Greeting 2 Line game ① (単語の確認) Line game ② (重要表現の確認) 3 Pair work (重要表現を用いた自己表現) 4 課題提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Student teacher</li> <li>• 単元の新出単語を確認する。</li> <li>• 単元の重要表現を確認する。</li> <li>• 会話で重要表現を確認する。</li> </ul>
校長先生の情報を聞き出す質問をたくさん考えて、明日マーク先生に必要な質問をするための準備をしよう！	
5 個人思考 ・校長先生について知りたいことを1～3つ考えさせ、質問する内容や表現を考えさせる。 6 集団思考 ・3人のグループにして、質問する内容や表現を話し合わせ、練習させる。 ・表現の間違いをお互いに修正する。 ・グループでT2のもとに行き、質問させる。 ・聞いた情報を英語で紙に書き黒板に貼らせる。	予想される答え ・好きな○○ ・経験したスポーツ ・休みの日にしていること… 予想される答え ・Does he like(play) ○○? ・What ○○ does he like(play)? ・What does he do on his holiday? ・He likes ○○. ・He plays ○○. ・His favorite ○○ is □□.
<p style="text-align: center;"><b>指導に生かす評価</b></p> <p>【評価場面】 ・グループワークの観察 ・ワークシートによる記録                      既習の表現を用いて、自分の聞きたいことを英語で質問することができる。                      &lt;手立て&gt;                      ・既習の表現を、家族紹介などのワークシートを振り返らせることで想起させる。</p>	

#### 第IV章

7 本時の学習の振り返り

- ・振り返りにおいて次時に向けて，新 ALT について聞きたいことを考えてメモさせる。

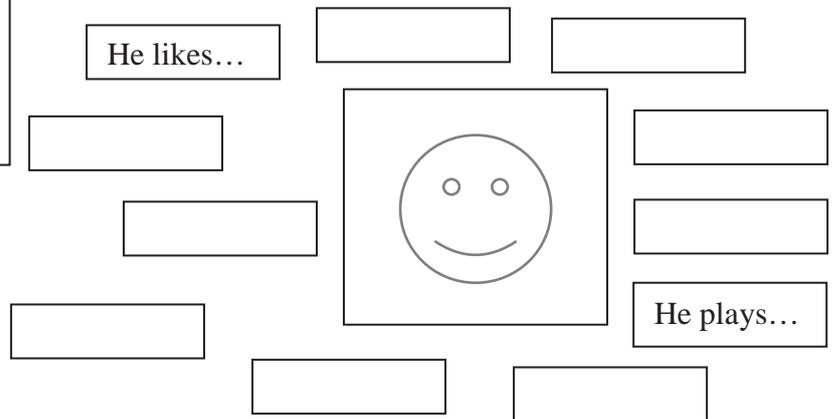
「今日の学習は，自分で考えて解決できたぞ。」

#### (4) 板書

明日マーク先生にたくさん質問するために，長谷川先生に質問して，校長先生の情報をたくさん聞きだそう。

☆必要な情報を質問するために…

- Does he like ○○？
- What □□ does he like？



## 7 研究協議の主な内容

### (1) グループ協議の内容

#### 【授業者より】

- ・情報を伝えたり、質問したりするための文章表現を学習する単元で、「三単現の文法」が学習の中心である。そこで、本単元の最初の時間に最終目標として「ウェルカムパーティーを開くこと」を設定し、学習を進めてきた。
- ・評価については、時間や学習活動のまとめりごとに最後の時間を「記録に残す評価」とし、それ以外を「指導に生かす評価」として行ってきた。本時は「指導に生かす評価」となり、次時はパフォーマンステストで「記録に残す評価」となる。

#### 【研究内容(4) 観点ごとの総括】

- ・前時までのワークシートを参考に文章を作成する様子が見られるなど、手立てがしっかりと練られていて良かった。
- ・評価規準をもっと具体的にすると見取りが明確になるのではないかと感じた。
- ・本時の目標を達成させるために使わせたい文法の意識付けをもう少し生徒に行ってから活動を始めると良かった。

#### 【研究内容(3) 単元の指導計画・評価計画】

- ・本時は、最終時間のパフォーマンステストに向けたプレの授業で、適切に評価場面を設定したことで生徒の実態を把握し、次時に生かすことのできる授業になっていた。
- ・指導に生かす評価と記録に残す評価の位置付けは分かりやすかった。しかし、目標や評価が時間や学習活動のまとめりごとの記述だと1単位時間の学習内容が分かりにくい。

### (2) 指導主事の助言

#### 《上川教育局教育支援課義務教育指導班主査 望月 俊綱》

#### ① これからの外国語科教育について

- ・今後は、小中高の指導方針をつなげた「コミュニケーションを図るための資質・能力を育成するための英語」の授業が展開できるとよい。
- ・本実践では、授業者が設定した最終ゴールに向かって生徒が学ぼうとする姿が見られた。このように単元を通して、生徒がゴールに向かって学びを深めていくことが大切である。

#### ② 指導に生かす評価、記録に残す評価の位置付けについて

- ・学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすこと（指導に生かす評価）に重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価（記録に残す評価）は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容やまとめりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階など、その場面を精選することが重要である。評価の際には、記録を取ることで目的になってしまい、授業改善の視点が不十分にならないように注意しなければならない。
- ・外国語科においては、教科書で学んだ知識及び技能を活用して、自分の考えに基づいて、自分と相手以外の人について話したり、たずねたり、答えたりすることを目指していることから、単元やユニットの前半は指導に生かす評価を積み上げ、後半に記録に残す評価を行っていく評価計画を設定する事例が多くある。国立教育政策研究所の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』には、各教科の評価計画が例示され

## 第IV章

ているので参考にするとよい。

### ③ 研究協議のあり方について

- ・今回の研究協議は、評価規準の妥当性と信頼性について、どのように高めていくかを考える事ができる内容だった。
- ・「この評価規準で良かったのか」、「どのような評価規準なら良かったのか」を校内で交流することで評価規準の妥当性や信頼性を高めてほしい。ただし、授業改善の目的に立ち返ったとき、評価のみを単独で考えるのではなく、身に付けさせたい力を明確にした単元づくりが根本にあることを再確認願いたい。

## 8 事後分析

### (1) 単元における指導に生かす評価と記録に残す評価を位置付けた評価計画について

知識を相互に関連付けて思いや考えを基に創造する姿を目指すためには、資質・能力が活用・発揮される場面を図ることができるような指導計画が必要である。さらに、1単位時間ごとに適切に評価を行うことで、生徒の学習状況を把握し、その都度、指導の改善を行いながら指導計画を進めることが必要である。

本単元は、三人称単数現在の表現を学び、第三者についての説明や質問をできるようにする。これを基に、単元の最終目標である「新しいALTの情報を現ALTに質問し、ウェルカムパーティーを企画しよう」という学習に繋げる。これらの活動が、文法指導に止まらず、自己表現に結び付くため、前半は知識・技能、後半に思考・判断・表現の観点に重きを置き、評価を行った。時間や学習活動のまとめりの最後の時間や、単元終末のパフォーマンステストと単元テストを記録に残す評価とし、それ以外は指導に生かす評価とした。

単元を通して、指導に生かす評価を行ったことや単元の最終目標とそこに行きつくまでの単元の学習計画を生徒と共有した。それにより、生徒の学習状況を把握して指導計画を変更したり、生徒自身が学習を振り返り、自己調整を図ろうとする場面を見取ったりすることができた。具体的には、4時間目の「自分の家族の紹介をして、その人物について質問をしてみよう」という授業において、第三者について質問する表現の定着が不十分であったため、5時間目に学校の先生について質問をし、他の生徒に紹介する授業を盛り込んだ。また何について質問すればよいか分からないという生徒の実態も見取ることができたため、当初6時間目に予定していた「楽しいパーティーに必要なものを考えよう」という授業において、これまでの学校行事や実生活を想起させ、具体的な場면을イメージして質問や説明をすることを練習した。自己表現の場面を増やすことで、生徒の主体的に学ぶ姿勢が多く見られるようになったので、今後の指導にも生かしていく。

4	質問とスラスラする、 友達と自分の家族を 紹介し合い質問はう。	春樹についての質問や 答えの内容が…	(5)・4・3・2・1 分かった 分からなかった
		新しいALTの先生のことを知れるようにする。	

4	友達と自分の家を紹介し合ひ、質問しよう。	春樹についての質問や 答えの内容が…	5・4・③・2・1 分かった      分からなかった
		少しわからないところがあるからもう少し強ね。	

記録に残す評価は、ワークシートを用いた発表原稿による評価、Web 会議システムを用いたパフォーマンステストによるやりとりの評価、単元テストで4回行ったが、やりとりなどの聞く話す活動を単元を通して行っていたため、パフォーマンステストにおいては、大半の生徒が正しい表現で質疑応答することができた。また単元テストにおいても、いつも以上にできたと感じた生徒が増え、点数にも反映された。しかし、パフォーマンステストで話せていた表現を単元テストでは書くことができなかった生徒もいたため、単元の中に書く活動をより多く取り入れなければならないと感じた。

生徒Aさん（普段の指導に生かす評価では、教師の支援によりB）

8 本 時	校長先生の情報を聞き出す質問をたくさん考えて、来週マク先生に必要な質問をするための準備をしよう!	校長先生の情報をたくさん聞き出すことが…	⑤・4・3・2・1 できた      できなかった
		質問することができてよかった。	

【単元テスト】

(2)	<del>Does Ellen what study</del>
(3)	<del>Does he have how many books?</del>

主体的に学習に取り組む態度の評価においては、振り返りシートを活用し、評価をした。振り返りシートに書き込む内容は「本時の授業で分かったこと・分からなかったこと・もっと知りたいと思ったこと」としていたが、何を目的として書くのかを生徒と十分に共有していなかったため、記述が曖昧になってしまい評価資料として活用するには不十分なものとなってしまった。また理解できたかを5段階で自己評価させた場面で、3をつけていた生徒に対して、個別の指導や具体的な解決策を実施することができなかった。粘り強さを見取るためには、分からなかった内容の克服に向けてどのように取り組んだのかを把握する必要がある。

生徒Bさん（普段の指導に生かす評価では、教師の支援によりB）

4	友達と自分の家のことを紹介し合ひ、質問しよう。	春樹についての質問や 答えの内容が…	5・4・③・2・1 分かった      分からなかった
		likes	

#### 第IV章

調整力を見取るための取組としては、毎時間の授業のやりとりの中で指導した内容が、次時にどのように改善されているか見取れる言語活動を用意し、評価することが必要である。

単元を通して、全体的な傾向として英語の言語活動への学習意欲は高く、単元の学習計画を生徒と共有することで、自己の課題を振り返り解決に向けて取り組むことができることが分かった。

7	電話の受け答えができる	電話出だしの会話の方法が…	⑤・4・3・2・1 分かった	分らなかった
		マーク先生のときに慣えるから完璧にしたい。		

#### (2) 本時における見取り方とその判断について

本時の目標は、「校長先生の情報を聞き出す質問をたくさん考えて、マーク先生に必要な質問をするための準備をすることができる」である。単元を通して、導入場面でターゲットセンテンスを習得するために、ラインゲームや身振り手振りをを用いた活動を繰り返し行った。本時がパフォーマンステストに向けたプレ授業であったこともあり、時間をかけて行ったが、その反面で主活動の時間が短くなってしまった。

本時における評価については、次時に向けて指導に生かす評価を行った。評価場面の言語活動では、時間が足りなくなってしまったため、T1とT2でそれぞれ生徒の表現を見取り、授業後に生徒の学習状況を共有した。この言語活動においては、校長先生について知りたいことをたくさん質問することが目標であったが、表現の幅が広がり過ぎて、“Does he like ○○?”や“What ○○ does he like?”というターゲットセンテンスの習得に迫りることができなかつた。生徒の振り返りの中では、「校長先生の意外な一面が知れて楽しかった。」という感想もあったため、どこまで表現の幅を広げるかを考えることで、今後の授業改善に生かしていきたいと考える。

評価の視点については、言語活動の場面において「聞きたいことを、自然な会話の流れと正しい表現で質問し、リアクションすることができる。」としていたが、指導教諭との一問一答のようになってしまったため、正しく評価することができなかつた。評価の視点を生徒と共有し、既習の表現を想起させるなどしながら、言語活動に取り組ませることができれば良かった。

8 本 時	校長先生の情報を聞き出す質問をたくさん考えて、来週マーク先生に必要な質問をするための準備をしよう。	校長先生の情報をたくさん聞き出すことが…	⑤・4・3・2・1 できた	できなかった
		校長先生の意外なところが見れた。		

8 本 時	校長先生の情報を聞き出す質問をたくさん考えて、来週マーク先生に必要な質問をするための準備をしよう。	校長先生の情報をたくさん聞き出すことが…	5・4・③・2・1 できた	できなかった
		もう少し不安なところがあるから勉強する		

## 第 V 章 研究の成果と課題

1 成 果

2 課 題

## 研究の成果と今後の課題

上川教育研修センターでは、第18次研究の研究主題を「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」と設定し、研究内容を指導と評価の一体化をテーマに、新学習指導要領の基で検証を行い、研究を進めてきた。

- 1 目標と手立てが合致した単元の指導計画及び具体的な児童生徒の姿を見取る評価計画を作成すること。
  - 2 評価計画で、評価する時期や場面の精選、評価方法の工夫をすること。
- その結果、第18次研究1年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

### 第18次研究1年次のまとめ

#### 《 成 果 》

- ① 指導と評価の一体化のモデルを示し、評価計画の中に、「1単位時間の評価で何を評価するのか」、「評価時期はどこで評価するのか」、「材料は何で評価するのか」、そして、「努力を要する子への手立てはどうするのか」と具体的に考えることで、育ませたい資質・能力にせまることができた。
- ② 評価を目的に応じて「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」に分けて考えることで、効果的な評価計画を立て実施することができた。
- ③ 抽出児童及び生徒に対する評価の妥当性を追求する研究協議を行うことにより、評価方法と手立ての成果と課題を分かりやすく実感を伴って共有することができた。

### 第18次研究2年次に向けて

#### 《 課 題 》

- ① 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の定義と単元、題材における位置付けをもう少し明確にする必要がある。
- ② 「主体的に学習に取り組む態度」を各教科、単元及び題材で、どのように評価していくか検討していく必要がある。

# あとがき

小学校学習指導要領の全面実施を迎えた本年度、当センターにおいては、「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」を研究主題に掲げ、第18次（2か年計画）となる第1年次の研究を推進してまいりました。

研究内容である学習評価については、児童生徒にどのような力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが重要であると考えています。

このような指導と評価の一体化について、コロナ禍という厳しい状況ではありましたが、研究協力校である旭川市立向陵小学校及び上川町立上川中学校、研究員所属校である旭川市立永山西小学校及び鷹栖町立鷹栖中学校に多大なる御尽力をいただきながら、研究授業等を通して、実践的に検証を進めることができました。

そして、この度、研究成果をまとめた紀要第46号を発刊いたします。これもひとえに、北海道教育庁上川教育局並びに旭川市教育委員会の皆様の御指導・御助言、研究協力校の先生方の優れた実践、そして、研究員所属校の先生方の御支援と御協力の賜物であると、心より感謝申し上げます。

本紀要の内容につきましては、不十分な点等があると存じますが、各学校における校内研修はもとより、個人研究や日常実践等に広く活用していただくとともに、多くの皆様の御批正、御指導をいただくことができましたら幸いに存じます。

次年度は、第18次研究の2年次となります。上川管内の先生方の期待に応え、これまで以上に理論と実践を充実させた研究成果をお示しできるよう全力を尽くしてまいります。

研究事業部長 工 藤 秀 敏

## 主 要 参 考 文 献

- ◇新学習指導要領，新学習指導要領解説（文部科学省）
- ◇初等教育資料，中等教育資料（文部科学省）
- ◇中央教育審議会答申（文部科学省）
- ◇評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）
- ◇学習評価の在り方ハンドブック（国立教育政策研究所）
- ◇上川教育研修センター研究紀要 第43号・44号・45号（上川教育研修センター）
- ◇平成30・31年度小学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- ◇平成30・31年度中学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）

## 研 究 協 力 校

上川町立上川中学校（校長 武 田 聡）  
旭川市立向陵小学校（校長 石 前 聖 香）

上 川 教 育 研 修 セ ン タ ー

所 長	福 家 尚
副 所 長	伊 東 義 晃
事 務 部 長	花 香 純 夫
研究事業部長	工 藤 秀 敏
研 究 員	吉 野 和 気
	斎 藤 邦 彦
	村 越 恵 一
	小 林 豊
	石 塚 大 輔
	久保田 竜 平
指 導 員	山 中 芳 子
	森 走 平
	加 藤 慎 司
	上 村 純 一
事 務 係	笹 谷 青 子
	上 光 さゆり

旭 川 市 立 陵 雲 小 学 校  
 旭 川 市 立 永 山 南 小 学 校  
 旭 川 市 立 永 山 小 学 校  
 鷹 栖 町 立 鷹 栖 中 学 校  
 旭 川 市 立 永 山 西 小 学 校  
 美 瑛 町 立 美 瑛 東 小 学 校  
 旭 川 市 立 東 明 中 学 校  
 旭 川 市 立 旭 川 小 学 校  
 旭 川 市 立 高 台 小 学 校  
 旭 川 市 立 北 星 中 学 校  
 旭 川 市 立 旭 川 第 三 小 学 校



本研究に関わってご助言・ご示唆いただいた指導主事の方々

北海道教育庁上川教育局義務教育指導班	主 査	望 月 俊 綱 様
旭川市教育委員会教育指導課	指導主事	上 田 達 也 様

研究紀要 第46号

主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方  
～求められる資質と能力を育む指導と評価～

発行 令和3年3月31日  
発行者 上川教育研修センター  
旭川市6条通4丁目  
電話(0166)24-2501  
FAX(0166)24-2512  
E-mail:kami-cen@educet.plala.or.jp  
印刷所 植平印刷株式会社  
旭川市9条通7丁目  
電話(0166)26-0161



試そう上川の力で  
創ろう上川の力で  
生かそう上川の力を

上川教育研修センター